

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	船木 恵一	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

<b>■授業の目的と概要(Course purpose/outline)</b>			
<p>「メディアとコンテンツ」、「ビジネス戦略とマーケティング」の領域をさらに深めてゆく学習です。どの産業・仕事にも必要とされる「情報発信・共感づくり」、「価値を生む仕組みや体制づくり」に関して、学生が自らの進路を考えながら研究テーマや課外活動を設定し、個人またはグループによる様々な活動を通じて、社会人として活躍できる知識やセンスの向上を目指すゼミです。最終的には大学での学びの集大成となる卒業論文のテーマに関して、3年生前期終了時には一定のテーマの設定を目指します。</p>			

<b>■授業形態・授業の方法(Class form)</b>	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	<p>アクティブラーニングを中心とします。①時事的なテーマに関するディカッションやディベート、②学生主体の雑談、③個人の研究や進路に関する進捗報告、④課外活動への参加。課外活動とは、大学祭、他演習との交流、コンテンツ等へ挑戦や学会での学生発表などを指します。前期終了時点において、残りの学生生活において、さらに知識を深めたい領域などを絞り込み、個人の研究のテーマ設定までをゴールにします。下記の授業設計はゼミ内で討議の結果、順序や頻度に変更される場合があります。</p>

<b>■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)</b>			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション～ゼミの目的と取組方法について。メンバー交流及び個人面談の日程調整。	講師及び学生の自己紹介、演習の狙い、前期の到達目標、ゼミ活動や運営の理解、主要日程、成績評価等の説明とQ&Aを行います。個人面談の日程(4～5月上旬)を設定します。	<input type="checkbox"/>
第2回	2025年10大リスク予測などをもとに、今理解すべきグローバルな問題、関心事について意見を交わす	数グループに分かれ、司会役等の役割を設定した後に、何に関心があり、どのようなテーマを深掘りすべきかを討議し、演習活動や個人研究の視座を得る。①と②	<input type="checkbox"/>
第3回	生成AIやロボット、水素活用や量子コンピュータなど仕事や生活を一変する技術について意見を交わす	前週に続き、グループに分かれて、学生を中心に新技術に関して、引き続き演習活動や個人研究の視座を得るために討議を行う。①と②	<input type="checkbox"/>
第4回	日本経済の課題と機会、成長する産業や反対に衰退する産業に関して、意見を交わす	自身の進路を意識して、将来性のある産業・職種、衰退する産業などについて、引き続き演習活動や個人研究の視座を得ることを目的に雑談を行う ①と②	<input type="checkbox"/>
第5回	学生同士のフリーディスカッション	第2回～第4回で討議した内容について、グループ及び個人で、深掘りたいテーマや研究対象、興味のある課外活動の発表を行う。③と④	<input type="checkbox"/>
第6回	学生同士のフリーディスカッション	前週に続き、具体的な活動を設計すべき、学生主体のディスカッション&雑談を行う。②、③と④	<input type="checkbox"/>
第7回	課外活動①	例：留学生交流、ボランティア活動、スポーツ活動などの課外活動を学生が計画して実行する	<input type="checkbox"/>
第8回	自分は何者か？ キャリアに関して考える	産業構造の理解、クアッド分類、MBTIなどを視点の異なる知識や手法を用いて、自身の長期的なキャリアについて考察してゆく。	<input type="checkbox"/>
第9回	社会はどうなっている？ 幸福とは何？	文化人類学、地政学、宗教や民族、哲学者の言葉などを用いて、人類の幸福の考え方をディベートする ①と②	<input type="checkbox"/>
第10回	自分の暮らす街の将来	国内外の新たな地域活性化の動き、幸福度ランキングなどから、暮らしやすい街・地域・国について、どういった視点を重視すべきか議論する ①と②	<input type="checkbox"/>
第11回	学生同士のフリーディスカッション	第8回～第10回で得た新たな視点や意見をもとに、グループ及び個人で、深掘りたいテーマや研究対象、興味ある課外活動のアイデアを協議する ②、③と④	<input type="checkbox"/>
第12回	課外活動②	国際交流、学会発表、企業訪問、文化活動などの課外活動を学生が計画して実行する	<input type="checkbox"/>

第13回	教養を身につける クリティカルシンキング演習	企業におけるヘッドハンティングの事例をもとに、求められるスキルや能力、論理的な文章作成について体験する	<input type="checkbox"/>
第14回	個人の研究テーマ、夏季から後期において取り組みたいことを決める	これまでの学習成果をもとに、個人の進路の方向性や卒業論文のテーマを仮発表し、夏季から後期にかけてどのような準備をするかを各自設計する。③	<input type="checkbox"/>
第15回	前期演習の総括	前期のゼミ活動や成績を振り返り、夏季から後期へ向けてのグループで行いたい活動を討議する。②と④	<input type="checkbox"/>

#### ■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各回のテーマに関して授業前に予習や準備活動を行います（2時間程度）。演習終了後はその週の活動に関する自己評価をグループチャットを通して各自が行い、メンバー間での課題の共有化、改善ポイントに関する相互認識を促進します（2時間程度）。欠席者はそのグループチャットを見ることでゼミの内容を補うことができます。

#### ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

LMS (microsoft teams) を通じて、自己評価に関して必要に応じてコメントやフィードバックを行います。また、ゼミ時間内での質問に加え、個人のチャットでの質問を受け付けます。さらに、オフィスアワーを利用して研究室にて面談することも可能です。

#### ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	広く社会を認識し、同時に自らの価値観に基づいて、将来における社会への貢献性について、専門知識や技能を深める領域を探求し、主体性を持って継続的に強みを増やす習慣を身に付ける。

#### ■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

#### 授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。アクティブラーニングの①～④の取組に関して、積極性・貢献性ともに、研究や課外活動において自主的な役割分担を行う意思を持ち、成果として自己の意見の表明や、口頭発表の内容などの学修態度と成果、さらに事後の自己評価の状況（期限内に、指摘や提言内容がわかりやすく、かつ取組みやすい、また他者への思いやりや協力姿勢がある）などを総合的に判断します。

#### ■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。参考資料は必要に応じて講師が用意します。	
2		
3		
4		
5		

#### ■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		